

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4191200072		
法人名	有限会社九州メディカルサービス		
事業所名	グループホーム「安心」なかばる		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字原古賀190番地3 (電話) 0942-94-5331		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年3月27日		平成21年6月10日

【情報提供票より】(平成21年3月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	7人, 非常勤 7人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
------	--------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(3月27日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団如水会今村病院・みねクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北に脊振山系を眺望し、東西に国道が通り、その南部に田園が広がる高台で、地域の中心に立地している。門扉も無く開放的で、玄関前には、季節の野菜畑や花畑がある。毎日の散歩はホームの敷地内で季節を満喫出来る環境であり、「いかなる時も入居者本位の運営を行い、元気で楽しく、地域に密着した、生きがいのある生活を支援する」という運営理念に基づき、利用者の安心・安全に配慮されている。平成21年1月より経営主体が変更されたが、看護と介護の両面を重視した支援が行われている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業所独自の運営理念を作り上げ、共同生活を通して、その人が有する能力に応じて自立した日常生活が出来るよう、サービスを提供している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で検討し、各人が評価の意義を認識している。又、地域密着型サービスの意義を理解し、意識改革・質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>管理者の交代で運営推進会議が開催されていない状況であり、今後は、委員の人選と、早目の開催を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>行事や面会の折に報告を行っている。又、毎月の金銭報告の折には、写真や文章で、暮らしぶりを伝えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りに参加したり、2ヶ月に1回の道路清掃作業の行事にも積極的に参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営主体法人の運営理念に加え、事業所独自の理念を作り上げ、毎日の申し送り時には唱和し、地域密着型サービスのあり方や意義を確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、「いかなる時も利用者本位の運営を行い、元気で楽しく地域に密着した生きがいのある生活を支援する」という理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	道路清掃に積極的に参加したり、お祭りに招かれたり夏祭りに招待したり、野菜作りや花の植えつけ等、地元の人々と多岐にわたり双方向の交流が行われている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、自己評価や外部評価の意義を理解しており、サービスの質の向上に外部評価を活かしている。ケアプランや業務日誌等の様式変更も、評価で見出された課題の一つとして取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業主体と管理者の変更に伴い、運営推進会議が機能していない。外部の人々の目を通して事業所の取り組みや具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための会議としての十分な開催にまでは至っていない。	○	運営推進会議が、利用者・家族・地域住民・地域包括支援センターや行政の職員等それぞれの立場の人の参加を得て、質の向上に繋げる事が出来るような充実した会議となることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	校区内の事業所管理者と民生委員・ボランティア代表者・福祉担当者・地域包括支援センターと「地域ケア会議」を3ヶ月に1回開催している。情報交換や事例検討会や時宜にかなった研修会を実施するなどして関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶりや健康状態については家族の訪問時に常に報告している。又、月1回金銭報告と一緒に行事等の写真を入れて、暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置しているが、意見や苦情等の投函には至っていない。家族の訪問時に面談をして、意見や苦情を聞くようにしている。寄せられた意見は内部・外部へ報告して、速やかにサービスに反映するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動の弊害を充分承知しており、異動や職種の変更を必要最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営母体の法人で、3ヶ月に1回全職員の勉強会が実施されており、全員参加している。法人外の研修にも積極的に参加できる体制をとっており、研修後は報告会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回開催される地区の勉強会と、校区内の「地域ケア会議」が3ヶ月1回実施されており、事例検討会等を通じてサービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望があると、医療機関や本人・家族と十分な面談を行い、納得了解を得た上で利用してもらっている。医療面での家族等の不安に対しても、看護師を配置するなどして安心の確保に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「自立支援と利用者主体」を念頭に置き、人生の先輩として、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の誕生日には、「かなえない」希望を聞き、家族と相談の上、本人の意向に沿うようにしている。食事会・温泉・買い物・散歩・ドライブなどの支援が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族からの要望や意向は職員で共有し話し合い、ケアプランに組み込むようにしている。見直しは3ヶ月毎に行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況や効果について、日々の介護の中から評価している。状態の変化が生じた場合は、本人・家族と話し合い、現状に即したプランを本人・家族に提示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、行政への相談等を代行したり、成年後見人制度についても町の安心サポートの利用についても支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員を2名配置し、入居前からのかかりつけ医療機関への診療を支援している。協力医療機関のリハビリの送迎や在宅総合診断等により週1回の適切な医療の支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したり終末期におけるケアについては、主治医・本人・家族の意向を大切にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りや尊厳を損なわないように、全職員を対象に接遇の勉強会を実施している。事業所内のプライバシーの保護や個人情報の使用については、別途家族に説明し、承諾を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体を念頭に置き、一人ひとりのペースを大切にして、出来る事を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食の食材を週4日利用者と買い物に出かけている。又、リビングには当日の献立が掲示されており、食材について話がはずんだり、作り方を教え合うなどして明るい雰囲気である。茶碗洗いや台拭き等それぞれの力量に応じた手伝いなどの場面がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回としているが、入浴時間は特に定めず希望に応じている。入浴のない日は足浴や清拭をして清潔を保持している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活が張りのある喜びの日々となるよう一人ひとりの生活歴を勘案し、野菜作り、草花の水やり、洗濯物たたみ、人物画のデッサン等を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の建物の周囲が散歩道となっており、野菜の出来や草花の植え付けを話題にしながらの散歩や、近隣の公園に花見に出かけたり、週4日の買い物にも出かけるなど戸外の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵掛けの弊害について、全ての職員が理解しており、日中は鍵掛けをせず、見守りを徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導下で消火・避難訓練をおこなっている。	○	夜間など、職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域の方々の参加・協力を得た訓練等の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量は毎日記録し、栄養バランスは宅配業者の管理下でカロリー計算されている。水分補給は、疾患による制限者以外の方は、自由に飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々として天井も高く、天窓を設え明るい。台所は対面式で、入居者の安全を確保しながら食事の用意ができる。その北側にウッドデッキのテラスが有り、バーベキューの楽しみや中庭を眺める事ができる。南側には浴室と床高の畳敷きとソファを配してあり、ゆったりと寛げる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたふとん・枕・整理タンス・小物入れ・テーブル・椅子等の持ち込みがあり、居心地よく過ごせるように工夫している。カップ・湯のみ・茶碗・箸も個人用となっている。		